

宇治田富造先生記念号によせて

宇治田富造先生は、昭和十七年九月立教大学経済学部を卒業されたのち、東亜研究所、和歌山県商工会議所に勤務されましたが、昭和二十年十一月に、母校立教大学の予科教授、経済学部講師（兼務）に就任され、それからのち、昭和二十四年四月経済学部助教授、昭和三十年四月教授、として三十四年四ヶ月のあいだ在職され、昭和五十五年三月をもって立教大学を定年退職されました。

そのあいだ、先生は、学部においてはアメリカ経済史、経済学その他の講義を担当され、また大学院経済学研究科においてはアメリカ経済史の研究指導を担当されて、長年にわたって多くの学生を教育し、後進の指導にあたられました。先生の広く深い学識と厳格なうちにも包容力のあるご指導は、先生に接した多くの人びとにつよい感銘と啓発をあたえました。また、先生は、経済学科長、大学および学部内の各種の委員会の委員を歴任され、大学および学部、研究科の教育、研究条件の改善、整備、充実のためにつくされました。

先生は、本格的な研究が未踏の分野であったアメリカ経済史の開拓を終戦直後からはじめられた数少ない研究者の一人であります。先生の現在までのご研究の集大成である『重商主義植民地体制論』第一部および第二部は、「理論的、実証的に堅固に構築された本格的かつ開拓的な学問的業績」であります。この学問上の業績によって、先生は昭和五十四年三月経済学博士の学位を受けられました。

また、先生は「アメリカ経済史研究会」の創立に参画され、世話人代表としても活躍され、わが国におけるアメリカ経済史研究の発展のために寄与されております。

このような、先生の長年にわたる教育上、学術上の顕著な功績にたいして、立教大学は昭和五十五年六月、先生に名誉教授の称号を贈りました。

私たちは、先生の定年退職にあたり、先生の温厚篤実なお人柄、そして学風をしのび、また先生の本学、とくに経済学部への貢献とご指導にたいする感謝の気持ちをあらわすために、本号を先生の記念号といたしました。

これからも先生がますますお元気で活躍されることをお祈りし、あわせて私たちのためにひきつづきご指導下さいますようお願い申し上げます。

昭和五十五年十一月

経済学部長

小林 威雄